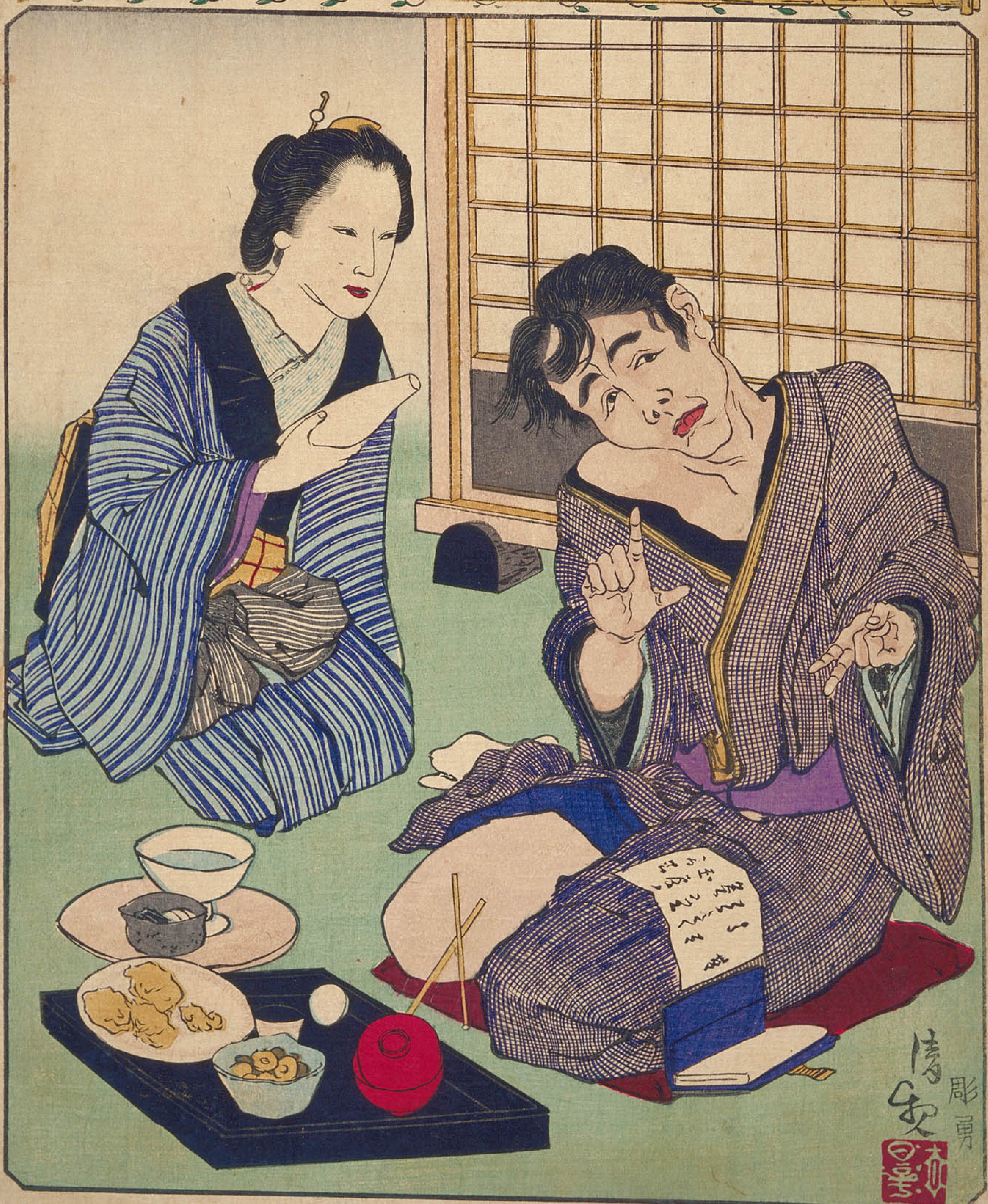
○獨言を云ふ酒癖

飲でも飲でも出る時十円紙幣が懐にあるのだが夫から彼ちツトばかりで彼奴に出逢ひ彼奴奴ト彼奴が一杯飲んでお前が一円ト二十五銭で夫からズイト木て彼奴の奴と主婦の彼奴の奴が二円出して出さうが一円二十五銭ト二円ト云へもんざ夫でこの口が都合三円ト二十五銭ヨ夫からスイト出て彼奴で買物をしたのざあまり一円五十銭ヨ夫から又飲んざのがあれが一人りで四十五銭ざから此又口が都合一円ト九十五銭サ都合で夫から先の口を合せると幾らざつけナエーく何んでも勘定今二円あるアねへがそんなに勘定の違ふ訳ハ「のざがハテ都合ざに仕て都合ットエー女が州因縁ト都合しあさいまし一ナ「ヲ夫ざ八四天能の五ト出た五に減ってる夫で乗るト都合成らうしらハテナ女「マー一ツ盃し上がりナ「ヲ、夫うざう一ツ上がるのが遠くおく五の内から一ツ上がるト幾りが四子五る所で都合ットか「夫うか旦那成ツちやアいけませんョ「そうらくたが勘定を呑けちやアいけめく今二ざけ残子へ寝さくら後の二ハ寝て忘くのざ

奔雷室人



御届明治十八年七月 日
画工 芝源助町十二バンチ
小林清親
出版人 本町三丁目十八バンチ
小川昇討

酒機嫌十二相之内　六種　文庫10-8349-2
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library